



MODEL : OM-225

## ワンマンブリーダー ( 負圧式 ) 取扱説明書

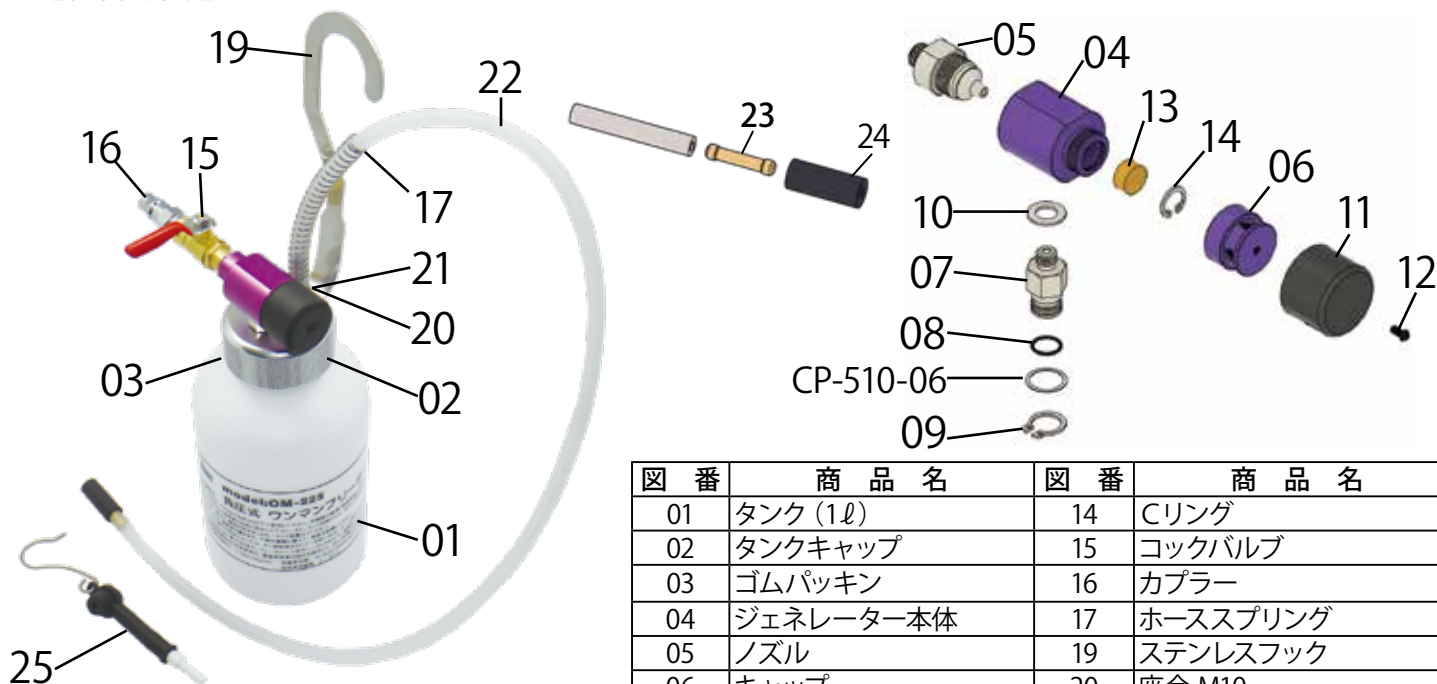
この度は、OM-225 : ワンマンブリーダー ( 負圧式 ) のお買い上げ誠にありがとうございます。  
ご使用前に内容品の確認と使用時における注意事項を熟読頂き、  
ご理解の上ご使用くださいますようお願い致します。

### 【適応】

オートバイ～小型トラック程度



### 【各部名称】



### オプション部品

型式 : OM-225-01B  
品名 : スタビライザー付  
タンク (1ℓ)



新たに追加されたスタビライザーにより、  
タンクの耐用年数が伸びます！

図 番	商 品 名	図 番	商 品 名
01	タンク (1ℓ)	14	Cリング
02	タンクキャップ	15	コックバルブ
03	ゴムパッキン	16	カプラー
04	ジェネレーター本体	17	ホーススプリング
05	ノズル	19	ステンレスフック
06	キャップ	20	座金 M10
07	ジェネレーターホース口	21	取り出し口 ( 延長パイプ付 )
08	Oリング S-10	22	シリコンホース (4 x 8)
09	Cリング	23	ホース口金具
10	アルミパッキン	24	ホース口
11	ゴムキャップ	25	L型ホース口
12	M3 六角付きボタンボルト	CP-510-06	M12 ウェーブワッシャー
13	メッシュフィルター	01B	スタビライザー付タンク (1ℓ)

### 【※使用上の注意※】

- ・供給エア圧力は、0.7Mpa ( 7Kgf/cm<sup>2</sup> ) 以下で使用してください。
- ・廃油は、タンクの8分目を超える前に処分してください。
- ・タンクを揺らしたり傾けるとサイレンサー部より廃油が吹き出しますのでご注意ください。
- ・ブレーキフルードは塗装面を傷めますのでご注意ください。
- ・ホース内のフルードから気泡がいつまでも消えないことがあります。  
その時は、ブレーキパーツ用ラバーグリスなどで隙間をシールしてください。
- ・ゴム部品、ホース部品は消耗品です。
- ・使用温度範囲：0℃～ 60℃です。

## 使用方法



▲上図は OM-213 を使用

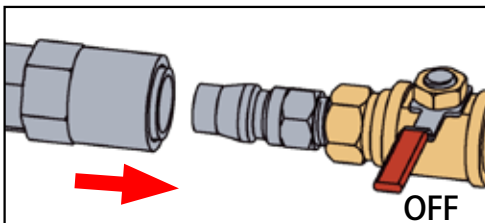
リザーバータンクが空にならないように自動供給器をセットします。

推奨

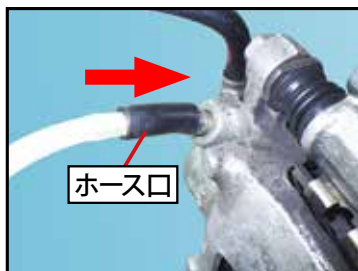
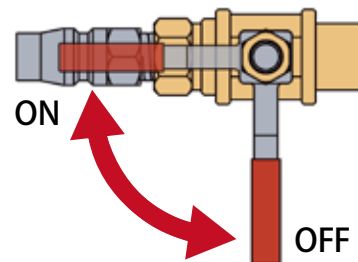


※用意するもの

- ・ブレーキフルード
- ・自動供給器
- ・エアーコンプレッサー
- ・スパナ



バルブを閉じたままエアーを繋ぎます。  
エアー圧力は 0.5 ～ 0.7Mpa



ホース口

ブリーダープラグにホース口を差し込みます。  
プラグを“1/2 回転”程度緩めます。

マスターシリンダーが空の時は  
予めブレーキペダルを  
数回踏んでフルードを送り込みます。



セット図

バルブ



バルブ（図番 15）を開いて真空引きを開始します。  
数秒ごとにブリーダープラグを開閉してエアー抜き作業を行います。



ホース口

最後にバルブ（図番 15）を閉じ気味にしてから、  
ホース口を強く押し当ててエアー抜き完了の確認をしてください。



各ホイールシリンダーのエアー抜き完了後、  
ブレーキペダルを数回踏みこんで  
踏み代が出ていれば作業完了です。

## トラブルシューティング

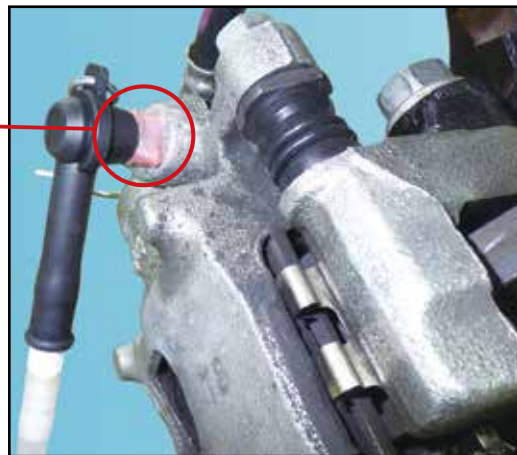
### いつまで経ってもエアが抜けない・ホース内のエアが消えない場合

- ブリーダープラグから負圧でエア抜きを行う場合、ゆるめたブリーダープラグのネジ部からエアが混入します。
- これは負圧でエア抜きを行う製品すべてに起きる現象ですが、エア抜きが完了しているか見極める方法があります。

ブリーダープラグのネジ部にラバーグリスを塗ってください。



ラバーグリス



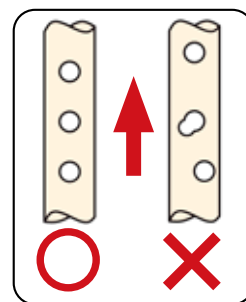
- ③ 足で踏む加圧式と異なり、ホース内が負圧になっていると気泡が大きく見えます。
- ③ 負圧式の場合、ピストンカップが劣化しているとカップからエアを吸ってしまう事があります。

### 3. それでも気泡が消えない場合は以下の方法を試します。

- コックバルブ（図番 15）を少し閉じて負圧を弱めます。ホース内の気泡の流れを見てください。
- ホースを軽くつまんでホース内の気泡の流れを見てください。
- 一旦ブリーダープラグを閉め、再度プラグを開けた時のエアの流れを見てください。

気泡の大きさが規則的に流れている場合はエア抜きが完了しています。

大小の気泡が不規則に出てくる場合はまだブレーキラインにエアが残っています。



**作業完了後は必ずブレーキ操作により踏み代を出してください。**

その他のトラブルにつきましては以下をご参照ください。

トラブル現象	点検項目	解決方法
フルードが出ない	・ 負圧を発生させて、吸引ホースを指でふさいでもメーターの針が動かない	ホースの亀裂確認 バキュームゲージで確認 (空気圧 0.6Mpa で -60kPa)
	・ ブリーダープラグ側が詰まっている	ブリーダープラグの穴を掃除する ブリーダープラグを交換する
フルードの出る量が少ない	・ 車両により配管が長い場合があり、その抵抗で吸引できるフルード量が減少する事がある	車両のブレーキシステムを確認 出にくい場合はペダルを踏む (マスターシリンダーのリターンポートを確認)
	・ 後輪側と前輪側では吸引量に差が出る	
	・ トラック・バン等はプロポーショニングバルブが装備されていて、かなりの抵抗となる	
負圧が発生しない	・ ハイドロブースター車等のブレーキシステムでは通常のエア抜き作業ができない場合がある	整備要領書を確認
	・ エア圧力が足りない	0.5 ～ 0.7Mpa のエア圧が必要です。
タンクが凹む	・ ホースやタンクに亀裂	修理を依頼してください。
	・ タンク結合部のパッキンが劣化している	
	・ 負圧発生装置が破損している	
タンクが凹む	・ エア圧力	エア圧力は 0.7Mpa 以下 フルード温度 60℃以上の時は冷ましてから使用する (タンク変形防止)
	・ フルード油温が高い	
サイレンサー部 (先端) からフルードが噴き出す	・ タンクにフルードが満タン	フルードはタンクの8分目まで溜まったら捨ててください。
	・ 作業中に本体を倒してしまった	ジェネレーター内部に入ったフルードを水ですすぎ、よく乾かしてから再度使用 吊り金を使用する

※修理につきましては販売店から弊社までご依頼ください。